

神戸市役所本庁舎2号館再整備に関するシンポジウム
「市庁舎エリア周辺エリアのこれからを考える」
～訪れたくなるまち・憩いたくなる空間とは～
実施報告

- (1) 日 時 令和元年12月22日(日) 14:00～16:00
(2) 場 所 デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO ホール
(3) 参加者数 132名
(4) 内 容 ①都心再整備、本庁舎2号館再整備の取り組みの紹介
②学生ワークショップの報告
③パネルディスカッション
(パネリスト)
神戸大学大学院工学研究科 教授 末包 伸吾 氏 (コーディネーター)
大阪市立大学大学院工学研究科 教授 嘉名 光市 氏
大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田 重昭 氏
神戸モトマチ大学代表 村上 豪英 氏
建築家 ALTEMY 代表 津川 恵理 氏

- (5) パネルディスカッションでの主な意見
- ・「3rd view」の提案にあるように、新しい神戸のイメージを潜在的に思い浮かべるような、新しいviewが必要。
 - ・2号館のある土地は、三宮南側への入り口として市民に開かれているということが重要。
 - ・オフィス街でよく見られる公開空地のような扱いではなく、ここにしかない風景を作るべき。
 - ・人が関わっていることを感じられる仕掛けを作ることが市庁舎周辺のにぎわいとして必要。
 - ・市民と一緒に頑張っていくことができれば、市民は自然と公共空間を使えるようになる。
 - ・人と空間の関わりを第一に考えたパブリックスペースが、新2号館の低層部に求められる機能である。
 - ・尖ったものを含め、世の中の様々なニーズを把握する必要がある。
 - ・市民と対話しながら事業を進める頭の柔らかいコーディネーターが必要。



シンポジウムの様子



シンポジウム会場内